

令和5年度第2回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和6年2月14日（水） 15：00～15：50

場 所：特別養護老人ホーム日本介護江別1階会議室（ココルクえべつ内）

出席委員：白崎敬浩委員、谷田川賢一委員、萩原克郎委員、新田雅子委員、
菊地達夫委員、藤本直樹委員、小林徹男委員、岸本佳廣委員、
田原久美子委員、森田弘之委員、佐々木尚弘委員、中井和夫委員、
赤川和子委員、（計13名）

欠席委員：腰原久郎委員、菅井美恵子委員（計2名）

事務局：企画政策部伊藤次長、健康福祉部四條次長、政策推進課嶋中課長、
中住主査

その他：ココルクえべつ事務局 明石コーディネーター、
高橋サブコーディネーター

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

- （1）江別市生涯活躍のまち整備事業 令和5年度取組経過報告
資料1、資料2（事務局から説明）

【質疑】

○中井委員

ココルクえべつがオープンする前の市民ワークショップから参加しているが、ワークショップで提案された取組は実施できているように思うため、実施内容について特に言うことはない。施設を利用する立場としては、他市からの視察が多いように見えるが、そういった情報も発信していくと良いのではないか。今時点でどのくらいの人数が来ているのかも教えてほしい。

○明石コーディネーター

昨年度までと比べると減ってきているが、令和5年12月までに、600人程度の視察がある。来場者数については、これまでの累計で29万人と発信してはいるが、ご指摘の内容に合わせて、もう少し細かい情報もお伝えしていきたい。

○藤本委員

感想としては中井委員と同様で、参加者も月によって多少の差はあるが定着しつつあり、活発な取組を行っていることについて敬意を表したい。事業

全体を通じてわかった課題感など、取組をする中でお気づきの点があれば教えてほしい。

○事務局

常駐コーディネーター2名をはじめとして、外部コーディネーター3名、そしてココルクえべつ運営事業者である日本介護事業団と協力しながら進めている。その中で、特に外部コーディネーターは、オープン前からまちづくりに関する知見をお持ちの方に参加いただき、様々なアイデアをいただきながら取組に繋げることができていた。外部コーディネーターが交代する中で、それまで外部コーディネーターから学んだ、イベントを開催する上での開催の方法や新しいアイデアを取り入れていく視点などを常駐コーディネーターが継承し、それを新しい外部コーディネーターに共有して引き継いでいく必要があるが、簡単にできることではないため、課題であると認識している。

また、ココルクえべつにおける取組は、生涯活躍のまち構想の実現のために行っているため、先ほど資料でご説明した「(仮称)『やってみたい』企業マッチングプロジェクト」のように、えべつ観光協会の取組に繋げて市域全体に事業を広げることができた取組は一つの成功例と言えるかもしれないが、今後もこういった取組を行うことで、市域全体に「共生のまちづくり」の概念が広がるよう、試行錯誤していきたい。

○森田委員

ココルクえべつの取組についての広報活動、市民への周知が難しいところ。以前、HPの立ち上げについてご質問させていただいたが、SNS等の手法についての検討状況はいかがか。

○事務局

今時点での周知活動についてだが、イベント開催前の周知を広報えべつに掲載するほか、実施後に写真を添えて広報えべつの裏面に掲載される「フォトグラフえべつ」でお知らせしている。また、チラシを作って配架したり、ココルクえべつで配信しているインスタグラムや市のHPでも周知をしているところ。森田委員からお話のあった、ココルクえべつのHPの立ち上げについては、ココルクえべつ事務局からご報告いただきたい。

○高橋サブコーディネーター

以前から森田委員からお話があったHPは、自分としても必要であると考えていたところであったが、とうとう開設ができる運びとなった。まだ周知は出来ていないが、今まさに内部的な準備を進めているところ。HPが開設できた際には、是非ご覧になっていただきたい。

(2) 江別市生涯活躍のまち推進事業 令和6年度取組予定

資料3、資料4 (事務局から説明)

【質疑】

○森田委員

資料3ページにあるSDG'sワークショップについて、SDG'sは範囲が広いが、どういった内容を開催するのか、また、対象は誰になるのか。もう一つ、アジパンダ食堂について、子ども食堂とあるが、開催頻度やどういった子ども食堂が対象になるのか教えてほしい。

○事務局

SDG'sワークショップについては、詳しい内容は決まっていないというのが正直なところである。ただ、キッチンカーフェスと同時に屋外で開催したいと考えているほか、もし屋内で行う場合でも、ゲームを通じた学びができるようなことを想定している。

○森田委員

SDG'sは、とても範囲が広い。

○事務局

もったいなんでない会というカテゴリで開催することもあり、「環境」あるいは「もったいない」という観点で開催できないかと検討している。

もう一つのアジパンダ食堂については、今年度ココルクえべつで行った「みんなの食堂」については、調理などの人繰りなどが難しいということもあり、令和6年度は開催する予定はない。そのため、味の素(株)から箱などが壊れて商品になりにくいものを無償提供いただき、各種イベント時、職員や来所者などに安価で販売し、その売り上げを既に子ども食堂を営んでいる団体に寄付をするということを想定している。そのため、何回開催するかは商品の提供の頻度によるため決まっていない。

寄付をする先についてだが、令和5年度は6か所に寄付しており、内1か所が江別市内で、5か所は市外である。江別市の子育て支援課に協力を依頼し、市が把握している市内の子ども食堂に対し、寄付についての周知をして、応募があったのが1件であった。その他の5か所は、アジパンダ食堂に登録している子ども食堂である。

○明石コーディネーター

市内からは2件の問い合わせがあり、申込みは1件だった。その後もFacebookで周知をしたが応募が無かった。味の素の実証実験は、全国で子ども食堂を含め18団体が参加しており、その参加団体に対し寄付をした。

○事務局

市内の子ども食堂に利用してもらうのが望ましいため、令和6年度も、まずは市内で申し込みがあるかを確認したい。

○萩原委員

SDG'sワークショップについて情報提供したい。まだ企画が明確では

ないが「ワンヘルス」をキーワードに北海道獣医師会が主催でシンポジウムとイベントを行う予定があり、酪農学園も運営のサポートを行う予定である。SDG'sは範囲が広いが、例えば、中高生を対象し、コルクえべつの取組と連携して「健康」をテーマに行うことも良いつながりになるのではないかと思い提案した。

○白崎会長

SDG'sは非常に対象が広いので、ご提案頂いた情報も含めて検討して行ってほしい。

○中井委員

直接、地域再生協議会で議論することではないかもしれないが、隣の敷地にある札幌盲学校の跡地について、現在はどのような状況になっているのか伺いたい。

○白崎会長

隣の札幌盲学校の跡地には、誘致期成会が結成され、高等養護学校の誘致活動が行われているが、現状、具体的に決まっていることはない。現在も引き続き、市と北海道との間で意見交換等を行っている。

3 その他

○事務局

次回の協議会は8月頃を予定している。時期が近くなったら、改めて日程調整する。

4 閉会